

『音絵字法』音読教本

# 『言霊の法則』

謝 世輝著

言葉

プロローグ

願望をかなえるカギは言霊にある

## ●言葉を変えることが成功への第一歩

「成功者と呼ばれる人は、言葉の選び方を知っている」一。

私の尊敬するジョセフ・マーフィーがいった言葉である。

成功者と呼ばれるようになった人の多くは、もちろん、天の時、地の利、人の和といった才能、運、努力、それに何事にも負けない不屈の闘志もあったに違いないが、一方、その人の成功の原因を全く別の角度から見ていくと、意外にも彼らの「言葉の使い方」が我々の数百倍数千倍も上手であった、というのである。

エジソン、ベートーベン、野口英世、最近ではビル・ゲイツに孫正義……。

苦しい環境のなかで、ときには世間の反発を受けながら 命懸けの努力の果てにつかんだ彼らの栄光の影にも実はこれまで隠されていた「言葉」の力があつた一。

その「言葉」の使い方、選び方次第で、我々の人生を豊かにできるのなら、ぜひ彼らの方法を学んでみるべきだろう。

そして、それは結局、自分の好きな道をまっすぐに進んでいきたい、人生をよりよく、豊かに生きたいと念願している私達に、大変有効な方法を示唆してくれるにちがいない。

言葉は、才能や運とはちがって、誰でも平等に持っているものである。別荘をいくつも持っているような財産家でも、毎朝満員電車で揺られて通勤しているサラリーマンでも、同じ言葉を使うことができる。

その言葉の量は、組み合わせ次第では無限だと言っていいだろう。その大量の言葉の多くを、私たちは無意識に使っている。いわば、だしっぱなしの水道の水である。

たしかに、今日一日を振り返っても、朝何を喋ったのか、どの程度の量の言葉を口から発したのか、正確に思い出すことはできない。

サラリーマンなら、家を出る時「行ってきます」といったのか、「今日は遅くなる」といったのか、はっきりしない。会社で取引先からかかってきた電話に、どう答えたのか、もう一度繰り返すことすらできない。ましてや、1日前2日前にいったことなど、まったく覚えていない。

さらに問題は使ってる言葉の質でる。

もし、仮に心の中にカセット・テープが回っていて、その人が話したこと全てが録音されているとしたら、どうだろう。

録音された中身といえば、ムダロや、どうでもいい噂話などであふれている。さらには、人の悪口、愚痴など、マイナスの言葉だらけなのではないだろうか。そしてこうした記憶にないほどのつまらない言葉の羅列と、無意識に発せられている大量のマイナスの言葉によって、当然のごとく、毎日を過ごす。そういう人はまさに自分が発した言葉どおり、マイナスに満ちた人生を生きているとっていいのかもしれない。

しかも、無意識に口に出したそれらの言葉が、知らず知らずのうちにその人の心に入り込んで、影響を与えているのだ。

その膨大な量の言葉がプラスのもので占められている人と、マイナスの言葉ばかりの人とを比較したら、いったいどのぐらい人生に差が出てくるのだろうか。

成功者は言葉の選び方を知っている—というジョセフ・マーフィーの言葉はここにきて、初めて真実味を持ってくるのである。

## ● 「意識」が行動を左右し、人生を左右する

では、なぜ「言葉」がその人の人生を左右する力を持っているといえるのだろうか。

それは言葉が「意識」を動かすからである。

誰もが持っている心の中のカセット・テープ—実はそれが「意識」である。そのカセット・テープには、その人が何の気なしに口にした言葉すべてが録音され、それがその人の人格や行動を形作っているのである。

なんとなく「これはうまくいきそうだ」と思ったものはうまくいき、「これはダメそうだ」と思うと、最初のうちはうまくいっていても、やはりダメになってしまう—。それらを左右しているのは、意識である。

「意識」が行動を左右する威力は絶大である。

仕事でも、取引相手の感触、雰囲気などから「これはうまくいく」と思っているとなんとかうまく収まるものであるし、恋愛をしていて現状はうまくいっているのに、「フられたらどうしよう」といらぬ心配をしてしまうと、結局はうまくいかなることがある。

たとえばゴルフをやっていて、グリーン脇の深いバンカーに目がいき、どうか心の隅に、「そっちに行ったら大変だ」と思った時は、見事にそのバンカーに入ったりするという経験のある方も多いと思う。

スキーでも同じことで、「右に曲がらないように」と願えば願うほど、右に曲がってってしまうものだ。

詳しくは後述するが、簡単に言ってしまうえば「うまくいきそうだ」という意識が、体に反応してボールをまっすぐに飛ばすことに成功させるし、「この仕事はうまくいくぞ」という意識が、自己に対する自信や信頼につながり、大仕事を成功に導くのである。

また、反対に「右に曲がったら大変だ」という意識がスキーを右に曲げるし、「フられたらどうしよう」という意識が、2人の間にトラブルを生んだりする。

ということはどちらもその人の意識の通りになっているのである。

そう考えてみると、意識がその人の現実を作り出しているともいえる。言葉を換えれば「意識はその人の運転手」なのである。

## ●人類全てに共通する「宇宙の心」が存在する

意識が現実を作っている— この事を説明するには、二十世紀初頭に活躍した心理学者のフロイトが説いた、ある説が必要である。フロイトはノイローゼの治療法として「精神分析」という新たな分野を開拓した。その業績はアインシュタイン、マルクスと並び称されるほどである。

それによって広く知られるようになったのが、「潜在意識」の存在である。フロイトによれば、人間の心の中には、いわゆる五感という言葉でいい表せる表層意識と、無意識と一般に言われている潜在意識のふたつの層があり、その割合は二対八である。つまり、私たちが一般に「意識」といっているものは、氷山の一角にすぎず、その水面下には、全体の八割にも及ぶ潜在意識が隠れている。したがって人間は理性（思う心）や知覚（知る心）よりも、実は本能や習慣、さらにはまったく我々が気がつかない深層心理によって、動かされているというのである。

もっとわかりやすくいうならば、心というものはそのほとんどが、自分ではコントロールできないということである。それゆえに潜在意識は「第二の本能」ともいわれている。たとえば、「タバコがやめられない」と嘆く人も、実は喫煙という習慣が潜在意識を支配しているためである。翌日つらくなることはわかっている、つい酒を飲んでしまうなどというのも、同様に潜在意識の働きによるものである。つまり、「わかっちゃいるけどやめられない」といった類のことが潜在意識のなせる業なのである。

さらに、心から信じることによって、潜在意識に入り込んだ思いは、我々を死に至らしめたり、不治の病を直したりすることもありうる。

実際、かつてアフリカのシュバイツァーの病院でこんな話があった。

当時、現地の人々の間では「バナナを食べると死ぬ」という迷信が信じられていた。そんな折、ある人が病院食を食べたあと、「さっきの食事の中にバナナが入っていたよ」と人づてに聞いたため、翌日死んでしまったという。

また、私の友人の話だが、高校時代にマラリアにかかり、発作的な発熱を繰り返していたとき、彼は冷水浴をすることによって熱を下げマラリアをたちまち直してしまった。ところが、それを聞いた医者は大きな声で「マラリアにかかったら、水に触れてはいけない。冷水浴などもってのほかだ」と怒鳴ったという。それでも、実際にマラリアは治ったのである。

このように、私達がまった気がつかないところで、潜在意識は絶えず私たちをコントロールし、人生を左右しており、潜在意識を動かすことができれば、信じられないようなことも起こるのである。

鎌倉時代の名僧道元は、こうした人間の中の潜在意識の存在を訴え、たとえ泥棒でもいつも念じていれば、悪事も成就するという意味のことを言っている。潜在意識は、悪事すらも可能にするのである。

その潜在意識の話をもさらに深めたのが、ユングである。

ユングは、多くの人の夢を分析した結果、潜在意識のさらに奥に 全人類に共通な潜在意識があり、あらゆる人の意識はそこにつながっていると結論付けた。つまり、個人の潜在意識は大海に浮かぶあぶくのようなものだと断言したのである。

ユングはこれを「集合的無意識」と呼んだ。

しかし、「集合的無意識」と書くと、いかにも学術書のように堅苦しくなるので、私はそれを、ここでは「宇宙の心」としておく。

さて、なぜ私がこの「宇宙の心」を問題にするかということ、この「宇宙の心」にこそ、自分自身が思ったことを実現し、切なる願いをかなえる、素晴らしいパワーが潜んでいるからである。私たちがその「宇宙の心」により種をまくことによって、人生において実りの収穫を迎えることもできるのである。

たとえば、古代インドの僧バズバンドゥ（世親）は、人間の意識には「八識」という八つの層があり、八番目の「阿頼耶識」（あらいやしき）がすべての源であり、生命の根源であると言っている。この阿頼耶というのにはサンスクリット語で「蔵」という意味があり、世界最大の山脈であるヒマラヤという言葉は、ここから派生している（ヒは「実」という意味）。

つまり阿頼耶という意識の層ですべてが生まれ、それが現実となって現れているに過ぎないのだから、現実世界も夢と同じように、意識が作り上げたものだということだ。この「阿頼耶識」というのが、私のいう「宇宙の心」に相当するものであろう。つまり「宇宙の心」には、現実界で起こることの原形のようなものができているのだ。

我々がその大きな力に気づき、そのパワーを活用するのとしらないのとでは、同じ人生にも大きな差が出てくるというものである。

## ●この発想の転換で全てが好転する

「宇宙の心」について考えを巡らすと、こういうこともいえる。

もし、ある人が仕事で失敗ばかりしていたとしたら、当然、その人は落ち込み、気持ちが沈み、仕事に対する情熱もわいてこないだけでなく、人生そのものまで捨ててしまいたくなるだろう。

「どうせ俺なんか何をやってダメなんだ」

彼は、自分のふがいなさに愛想がつき、自己不信に陥るかもしれない。

また、女性でも、恋愛や結婚に何度も失敗して傷ついたりすると、もう恋愛をする勇気もなくなり、全てに投げやりになってしまう。

ところが、私からいえば、そういう人たちは決してダメ人間ではない。それどころか、彼らは失敗するという点に関しては、見事に「成功者」なのである。「失敗するだろう」と人から思われて、その通りに失敗するし、自分でも「また失敗するに違いない」と思った通りのことを実現してしまうのだから、失敗に関して、まさに天才なのかもしれない。

つまり、その人たちは「失敗する」と思って、実際に、その意識のままを実現してるんだから、実は、大変に素晴らしいパワーを持っているといえるのだ。いい方を換えれば、思ったことを実現する 超能力の持ち主だといってもいいかもしれない。

なぜ、私がそこまでいいきれるか、よく考えてみよう。

たとえば、あなたが「失敗する」と思って、やはり思った通りに失敗したとする。では思ったことを実現したそのパワーはどこから生まれてきたかといえは、元は、「失敗する」と思ったあなたの意識にあった。その思いが「宇宙の心」に届いたのである。

ということは、あなたは意識を使って、「宇宙の心」を動かし、思いとおりにさせる強力なパワーを引き出したということではないのか。

逆にいえば、もし、あなたがそのパワーを使って「この仕事はきっとうまくいく」と信じれば、うまくいくのではないか。「この恋は絶対に実る」と確信を持てば、素晴らしい恋に結実するのではないだろうか。

あなたのなかに、それだけのパワーがあるのだ。

そうだとしたら自分自身が思った通りのことを、確実に実現するだけのパワーを持っていることにあなたは気づき、また、いままでは失敗を実現してきたのだと気付いたら、同じだけのパワーを、今度は成功の方に振り分ければいいだけの話だ。

つまり、「宇宙の心」を知れば、発想の転換で、全てが好転するのだ。

## ●世界の初めに「ことば」があった

さて「聖書」の中のヨハネによる福音書第一章の冒頭の言葉はこういうものである。

「初めにことばがあった。ことばは神と共にあった。ことば神であった。すべてのものはこれによって出来た。

これはいったいどういう意味なのだろうか。

この「ことば」というのは、私たちが使っている「言葉」とは、どうも深さや重みがちがうようだ。なにしろ「ことば」は神であり、すべてのものはこれによってできたというのだ。そうすると、ここでいう「ことば」は万物の命そのものだと推察できる。

そう考えるとこの「ことば」は「宇宙の心」のことをいっているのではないか。「宇宙の心」からすべてのものが生まれてくることは既に述べた。すると、私たちがふだん使っている「言葉」にも、万物を生み出すパワーが込められているとは言えないだろうか。

つまり、言い方を変えると、「ことば」という大木があり、そこから枝が大きく張り出し、その枝に「葉」が茂っている。その葉が私達は日常使っている「言葉」なのだとしたらわかりやすいかもしれない。

実際、「万葉集」にも、「そらみつ大和の国は皇神（すめがみ）の巖（いつく）しき国言霊の幸（さきは）ふ国と語り継ぎ、言い継がひけり」と書かれているように、日本には古来言霊という「言葉自体に力があり、その使い方によって幸福になれる」という思想がもともと存在していたのである。

ところが、先に述べたように、私たちは大量の言葉を持ちながら、それをただ毎日好きなように垂れ流し、全く無意識のうちに使っている。

だとしたら、私たちが日常使っている言葉を、意識してプラスに転じていくことによって、その言葉がパワーを持ち、「宇宙の心」を通して願望を実現することも可能だということである。

それが、「言霊」といわれるゆえんである。

この言霊の威力に目覚め、活用すれば、あなたの人生を変えることも決して可能ではない。

## ●日頃の言葉の使い方が人生を決める

さて、私たちは、人から言われた言葉からも、多分に影響を受けているということもいえる。

たとえば、私たちは振り返ってみると、子供のときに、親から多くの量の言葉をまるでドッジボールのようにしてぶつけられている。「勉強しなさい！本当に、ダメな子だ」  
「お前は何をやってもダメだね」

このように、「ダメな子だ」といわれつづけた子と、そうでない子とではその子の将来がちがってくることは確かのようなのだ。

実際、生まれたとき「男が欲しかったのに、また女かと」いわれた子が大きくなって、誕生時の記憶などないはずなのに、その言葉が一生の重荷になり、暗い人生を歩んできたという人がいた。それだけ、彼女にとっては「なんだ、また女か」といわれた言葉がショックだったのである。

エジソンのように、小さい頃まわりの人たちに、いつもダメな子とをいわれつづけながらも、人のために生きる立派な人間になった人もいるが、そういう子達は大変な努力の末、そこまでの人間になったのである。

ところが普通の子は、自分の親をはじめ、周囲に「ダメな子だ」と烙印を押されたら、「どうせ、自分はダメな子だ」と思ってしまうだろう。

私のこれまでの経験では、この「どうせ・・・」という言葉は決してプラスの方向に働かない。「どうせ・・・」と思ったときから、何をやるにしても投げやりになりがちである。そしてその子の人生は、一生マイナスの方向へと進んでしまう。

言葉の威力はそれほど大きいのである。

なぜなら、「宇宙の心」に影響を与えるのが言葉だからである。

だから、「絶対に負けない。やるんだ。やってみせる。」という言葉をも自分にいいつづけていれば、それが同じように宇宙の心にインプットされ、どんな困難なときでも援助する人が現れたり、必要な情報が集まったりして、仕事がうまく行くのである。

「言葉」というものには、そういう力が存在するのである。発音された言葉は、自分の耳にはね返って潜在意識から宇宙の心に影響する。その人の運命さえも、変えてしまうのだ。

つまり、その言葉の使い方によって、人生がプラスの方向に向かうか、マイナスの方向に向かうかまで、決まってしまうというわけだ。

## ●言葉に信念を込めて**言霊**を作れ

それでは、私たちが毎日の生活の中であふれんばかりに使っている言葉を、どうしたら、「宇宙の心」に影響を与えることができるような、強力なパワーを持った「**言霊**」に変えられるのか。

私たちが無意識に大量に発している言葉のどのひとつをとっても、「**言霊**」にはなっていない。それは、その言葉に信念がこもっていないからである。

たとえば受験生が心の中で、落ちたら来年があるさ、と思いつつ「いい大学に入りたいなあ・・・」と何度口に出しても、ただ口から発しているだけでは、その願いはなかなかかなわない。ところが、今回の受験に失敗したら、もう後がない。そういう受験生が、「この大学に絶対に合格してみせる！」と言った時の言葉には、しばしば本当に信念がこもっているものである。

同じ受験生の願いでありながら、前者の願いはかなわず、後者の願いがかなうとすれば、それは後者の言葉の方が「想い」がこもっているからである。つまり、その受験生の「言葉」はその瞬間、「**言霊**」共に変化しているのである。

これを野球のボールにたとえてみよう。

たいした球速もない投手のと真ん中に投げたボールを、強打者が打てないことがある。

私は野球にそんなに詳しくはないが、よく見ていると、その投手は投げるときに心の中で「エイ！打てるもんなら打ってみろ」と叫んでいるように見える。気持ちがボールに乗り移っているのである。そういうボールは、強打者が打っても飛んで行かないのである。

言葉でも全く同じことが言えるのだ。

ふだんべらべらよくしゃべる男がいう「気持ちがいい愛の告白」より、寡黙な男がポツリというプロポーズのほうが、たとえ愛の深さは同じであっても、いわれる女性にとっては言葉の重みがちがって聞こえる。

ボールに野球の投手の気持ちが乗り移るのと同じように、ふだん寡黙な男のプロポーズの言葉のほうが心がこもるのである。

つまり、「言葉」を「**言霊**」にするには、自分の想いを込めなければいけない。しかも、その思いが強烈であればあるほど、強い**言霊**となって、自分の、あるいは相手の潜在意識を刺激し、動かすのである。

## ●成功者はみなこの法則を知っていた

成功者たちのサクセス・ストーリーを読んでみると、こうした原理を既に知っていたのではないかと思われるほど、みな「言霊」を使って、それぞれの「願い」を成就させている。

たとえば、私がよく持ち出す元アメリカ大統領ジミー・カーターの例など、そのひとつの典型であろう。

1974年当時カーターはアメリカの一州知事でしかなかった。その州知事時代に、彼は日本にやってきて、当時外相だった大平正芳に会おうと試みた。ところが特に約束もなかったのに、太平の秘書は断った。州知事レベルの人とは特に会う必要はなかったからである。

カーターは必死で頼み込んだ。その熱意が通じたのか、会談は実現し、その席で太平はカーターから一冊の著書を贈られた。それにはこんなサインがしてあった。

「今度はホワイトハウスで会いましょう」

そして1976年、カーターはその言葉通り、合衆国大統領になった。太平も1978年、福田首相の後を受け、日本の総理大臣になり、二人の日米首脳会談ホワイト・ハウスで実現したのである。

カーターは子供の頃から信仰心があつく、自分の願いはことごとく実現すると信じ込んでいたため、単なる州知事に過ぎないときでも、「私は必ず大統領になる」といえたのであるが、それは見方を変えたと自分の願いを信念のこもった言葉にすることで「言霊」に変え、自分の潜在意識を動かし、それを実現したに違いないのである。

こういう例を挙げれば枚挙にいとまがない。

フランスの元大統領ドゴールは、子供の頃から「自分はフランスを救う英雄だ」といっていて、高い所から落ちて父親が心配しても、「未来の英雄はこんなことではケガをしない」といったという。ピカソもまだ芽の出ないときから、日記に自分のことを「天才」と書き、「天才の今日の食事は……」などと毎日書いていたと言われる。

日本でも、竹下登元首相は、1960年に議員に初当選したときに、応援してくれた人たちの前で、大蔵大臣なる時期、自民党幹事長になる時期、そして首相になる時期を明言していたという。結局、時期は予想より少し遅れたが、実際、その言葉どおり、首相に上り詰めたのだ。

また、最近の若い人の例では、音楽プロデューサーとして超売れっ子になった小室哲哉が大学生の頃から「自分は世界で認められるミュージシャンになる」ということを、まわりの人たちに言っていたというし、ゴルフのタイガー・ウッズもまた、マスターズが白人だけの特殊な大会であることを8歳の時に知り、その閉鎖性が彼の闘争心をあおり、「絶対に、マスターズで優勝してみせる」と子供のときに断言したという。

このように、古今東西多くの成功者たちには、自分の夢を、信念を込めた言葉にして、繰り返し自分自身に言い聞かせてきたという共通点があるのだ。

いい換えれば、単なる願いの言葉を、信念を込めることによって「**言霊**」に変え、時間を掛けてさらに想いを込めて、夢をかなえるパワーに変えたのだ。

## ●人間の持つ無限の可能性を引き出せ

これまで説明してきたように言葉の持つ霊的な力をわがものにし、「言葉こそ、自分の人生を勝利に導く最良の武器である」と明治、大正、昭和という激動の時代を縦横無尽に駆け抜けた、一人の日本人がいた。

それが、ここ数年、話題になっている中村天風（1876～1968年）である。

天風は肺結核を患って、死の淵まで行き、ヒマラヤのカリアップ師の下でヨーガを修行し、死病を自分の力によって完全に克服した人である。彼は、ヒマラヤで体得した瞑想法をはじめ、数々の意識改革の方法論を生み出した。いまでもその思想に、心を揺さぶられる人は多い。

その天風のいいたかったことのひとつが「**言霊**」であった。

「すなわち言葉は人生を左右する力があるからである。この自覚こそ、人生を勝利に導く最良の武器である。われらはこの尊い人生の武器を巧みに運用し応用して、自己の運命や健康を守る戦いに颯爽（はつらつ）として、希望に満ちた旗を翻しつつ、勇敢に人生の難路を押し進んでいかなければならない」

「私は今後かりそめにも、我が下に悪を語らせない。否、一々我が言葉に注意しよう。（中略）終始、樂觀と歡喜と、輝く希望と澆刺たる勇氣と、平和に満ちた言葉でのみ生きよう。そして、宇宙靈の有する無限の力を我が生命に受け入れて、その無限の力で自分の人生を建設しよう」（中村天風「運命を切り拓く」講談社）

まさに天風は、唱える言葉の威力をよく知っていたのである。言葉の持つ力を最大限に引き出し、人生に役立てる方法論を多くの人に説いた。

天風には、こんな不思議な逸話が残っている。

ある人が今のお金で500億円という莫大な借金抱え、まったく途方に暮れ、天風を訪ねた。天風は特に驚いたふうもなく、その人にいった。

「私が頼んでおいたから、今日から神様があなたの商売を始めると思う。だから、あなたは主人ではなく、番頭のつもりで主人のもとで働きなさい。必ずうまくいきますから、まずそれを信じなさい。」

その人はその言葉を信じて再び一からやり直し、何年か後に 500 億円と 7000 万円ほどの利益を出したという。借金を返して、ちょっぴり余裕ができた。全部返してゼロとなってしまうとは、次の仕事がたちゆかないから、もう一度立て直すための資金分だけ、神様は儲けけさせてくれたというのだ。

これは、私達の常識では考えにくい。しかし、天風は人間の背後には、無限の能力が隠されていることを知っていたし、借金をした人が、ひたすらその無限の能力を信じ、粉骨砕身の努力を惜しまなかったために、莫大な借金を返すことができたのである。

普通の人であれば これだけの莫大な借金を背負ったら、その段階で「もうだめだ」とあきらめてしまっても当然だ。その「もう・・・」という言葉で、潜在意識はマイナスの方に働いてしまう。ところが、「必ずうまくいく」とプラス思考で強く信じたことによって奇跡が生まれたのである。

人間は無限の可能性を持っている。その可能性を引き出すキーワードのひとつが**言霊**というわけである。

では、次章からじっくりと「**言霊**の法則」について述べていこう。にわかには信じられないと思われる話も出てくるだろうが、**言霊**の仕組みを理解すれば不思議でもなんでもないことに気がつくはずだ。